

単元名 オーケストラやパイプオルガンによる表現を鑑賞しよう

配当時間 3時間

- 単元の目標 (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解することができる。
 (2) 曲想と動機の現れ方、ソナタ形式やフーガの構造との関わりについての知識を得たり生かしたりしながら、曲に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。
 (3) 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く学習に主体的・協働的に取り組もうとする。

標準的な展開例

11260104_001

【教材名】交響曲第5番ハ短調 小フーガト短調

(上 P. 34～P. 39)

【準備等】鑑賞映像

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 「交響曲第5番ハ短調」を鑑賞する。 ★オーケストラによる表現を味わおう。 ○「交響曲第5番ハ短調」第1楽章を鑑賞する。</p> <p>○反復して現れる動機のリズム、第1主題と第2主題の旋律の表れ方を理解する。 ○ソナタ形式を理解し、鑑賞する。 ・第1主題と第2主題の現れ方 ・展開部の響き ・再現部の現れ方 ・動機の現れ方 ○第2～4楽章を比較鑑賞し、発表交流する。</p> <p>3 「小フーガト短調」を鑑賞する。 ★パイプオルガンの豊かな表現を味わおう。 ○「小フーガト短調」の構造を理解する。 ○パイプオルガンで表現されていることを確認し、作曲家や楽曲の背景を理解する。 ○主題と応答の現れ方を聴取し、音楽の構成をとらえる。</p> <p>○「交響曲第5番ハ短調」と「小フーガト短調」の曲想の違いを楽しむ。</p>	<p>・オーケストラで表現されていることを確認して、第1楽章の第1主題の動機がどのように反復・変化されているかを考え、発表交流させる。</p> <p>・動機のリズムが全楽章にわたって用いられていることを取り扱うこともできる。</p> <p>・提示部・展開部・再現部・コーダごとに鑑賞し、ソナタ形式から生まれる曲想についてまとめさせる。</p> <p>【評】楽曲の構造を理解し、曲想との関わりを感じ取る活動を通して「知識」を評価する。</p> <p>・他の楽章も動機のリズムによって音楽が構成されていることを手掛かりに鑑賞させるとよい。</p> <p>【評】動機の現れ方やソナタ形式に関連する曲想を感じ取る活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・パイプオルガンの演奏を試聴し、機能や仕組みを理解して表現の特徴を感じ取らせる。</p> <p>・主題と応答について、調や音域の違い、四つの声部の関わりなどを理解して、聴き取らせる。</p> <p>・それぞれの楽曲の魅力やおもしろさについて発表交流させる。</p> <p>【評】自分の価値意識を述べることで、楽曲のよさやおもしろさを味わう活動を通して、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】

「交響曲第5番ハ短調」では、第1楽章の動機が反復・変化して現れることを理解し、曲想を感じ取りながら音楽の価値について考えていく。「小フーガト短調」では、主題と応答の繰り返しや、四つの声部（ソプラノ、アルト、テノール、バス）によるフーガの構成について理解し、それぞれの曲想を味わいながら鑑賞していく。

【共通事項】音色・リズム・速度・旋律・テクスチャ・強弱・形式・構成